

## 美術館館長とのつれづれなる談義【2019 年秋】

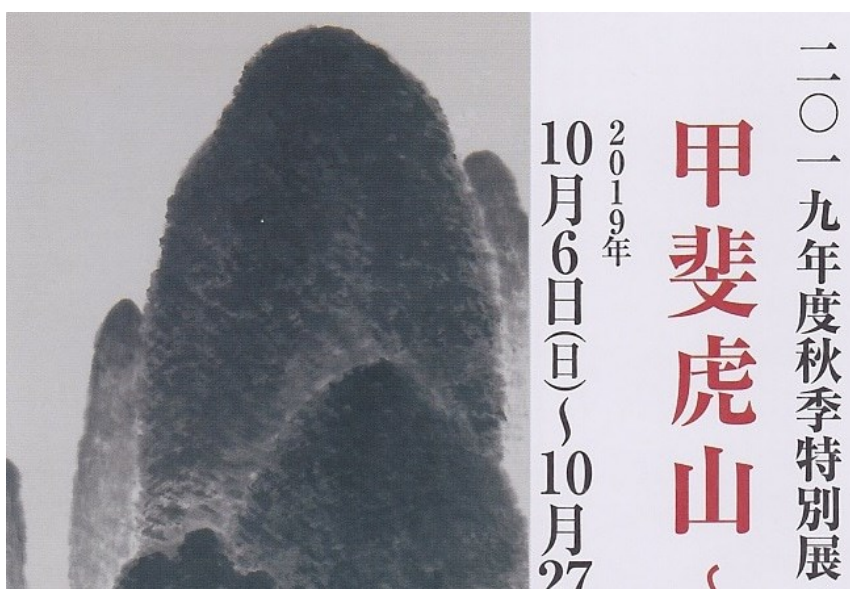
先日、大阪府枚方市にある公益財団法人天門美術館の

2019 年度秋季特別展

甲斐虎山

～昭代文雅之巨擘～ 展

(2019 年 10 月 6 日から 10 月 27 日まで開催、月曜日は休館)へ行ってきました。



知られざる画家の再発見。

甲斐虎山は大分県臼杵市に生まれ、豊後南画の伝統を昭和戦後にまで受け継いだ画人です。

居を京都に移し、和里子夫人が設立した私塾「文中園」(京都女子大学の前身)の教壇に立ちながら、多くの作品を描きました。

今まで公開されたことのなかった京都女子大学図書館所蔵の作品等が展示されています。

今回は先客があったので、ゆっくり作品を観ながら時を過ごしました。

昨今は、古美術品の売買にもネット取引が増えているそうです。現物も観ずに。信じられません。時代の流れでしょうか。

もっと驚いたことがあります。  
古美術の購入に慣れている好事家でさえ、画商との取引後、美術品を返品することが多いそうです。  
購入後、すぐに知り合いの学芸員に作品を見せて感想を聞く。  
学芸員は批判的な意見を言いがち。  
じゃあ、思っていたものと違うのでこれは返す。  
このような流れで。

売る側のプライドが傷つけられます。  
今まで失敗もしながら、商いを通して作品に対する目を養ってきたという自負が。  
また、買う側のプライドは存在しません。  
人の意見に左右されてばかりで、自分の主体性は？

結局、美術品をカネとしか捉えていないということでしょうか。  
美術品の価値を、即、カネに換算するのです。  
本来、人の心を豊かにしてくれる美術品なのに。

今回の特別展の後、引き続いて記念展が開催されます。

## 生誕110年記念展

### 池田遊子展

(2019年11月2日から11月17日まで開催、金曜日は休館)